

▼別ショットの写真



園の園児と一緒に撮った記念の一枚です。たくさんの種類、数がそろったおひなさまの展示を楽しみました。

今月の表紙は、郷土資料館の季節展示として行われている「おひなさま」とその様子を見学に訪れた里保育園

今月の表紙

みんなの 広場

皆さんからのお便りをお待ちしています

〒444-0192 菱池字元林1-1 幸田町役場企画政策課広報広聴G
E-mail:kikakujo@town.kota.lg.jp ☎62-1111 (内線334)
FAX63-5139

こたの民話

「弁慶の切り岩とながもち」

京の五条の橋の上 大の男の弁慶は 長いなぎなた振り上げて 牛若めがけて切りかかる。

この「牛若丸」の歌でも知られている、大男で力持ちの弁慶についてのお話は、ここ幸田町の荻にもあります。

荻の北峯の山の中に、それはそれは大きな岩があります。ある時、弁慶がここを通りかかりました。

「これはこれは、大きな岩だ。運んでいって、庭の石にしよう。」

そう思った弁慶は

「えい、やあ。」

とかげ声をかけ、ありったけの力をだして動かそうとしましたが、岩はびくともしませんでした。

「ええい、しゃくだ。三つに切つて運ぼう。」

ずいこずいこ汗だくだくになりながら、やっと一つ切ることができました。二つめを切っている時、カチッという音がしたと思ったら、のこぎりの歯が欠けてしまいました。

「ええい、いまいましい。もう止めた。止めた。」

こうして、その岩は、今も、そのまま山の中にあります。

また、内田さんとこの山の中にも、大きな岩があります。

長さが三メートル余りもある大きなものです。

「これはいい。ながもちにするのにぴったりの石だ。」

ながもちというのは、着物や大事な品物をしまっておく、長方形の、ふたのある大きな箱のことです。石のながもちなら、弁慶の持ち物にふさわしいものでしょう。

「えい。やあ」

弁慶はこんしんの力を込めて持ち上げようとしたのですが、びくともしませんが、もう一度やってみましたが、やっぱり持ち上がりませんでした。

こうして、弁慶の切り岩も、弁慶のながもちも、今も、荻の山の中に、そのまま置かれたままになっています。 (「こたの民話」の要約)

みんなの作品展!

平成26年度 幸田町小中学校書き初め作品展からのセレクトです



中央小 6年
志賀 宥美 さん



南部中 3年
大岡 千紗 さん

皆さんの作品を募集します。応募方法は、はがき裏書きもしくは作品を写真に撮りタイトルと作者名(ペンネーム可)をご記入のうえ、企画政策課広報広聴Gまでお送りください(デジカメ写真の場合はメールで。)

あやすい

「あやすい」

3月。難関突破を最後まで諦めないお姉ちゃんの姿に、胸を熱くするお父さん……

「こいだけ、いっしょけんぞうで、やってこや、入試なんあやすいもんだ」
「これだけ一生懸命にやってこれば、入試なんてやさしいものさ」という意味です。

この「あやすい」「容易」と当てられる「たやすい」が転じたものだといえ、たが「あ」に変わっただけですので、納得できそうですが、早合点は禁物です。「たやすい」は、容易、簡単を意味する形容詞「やすい」に接頭語「た」が付いたもので、「た」は、「たなびく」や「たばかる」のように、動詞や形容詞に付いて意味を強め、語調を整える働きがあります。でも、「あなびく」とか「あばかる」なんて聞いたことがありません。

その「あやすい」は、簡単は簡単でも、例文のように、テストなどの問題が難しくなく、解きやすいときに使われます。ですから、「たやすい問題」を「あやすい問題」と言い換えることはできませんが、「たやすい仕事」を「あやすい仕事」と言い換えると、違和感があるのです。

やはり、答えを出すのは、あやすいことではありませんね。

(文・こたけ)



青春トークリレー

△△第264走者△△

かとう しゅうた
加藤 秀太 さん

海谷区在住 21歳 身長 166cm

血液型 A型 職業 大学生

好きなタイプ 沈黙が苦にならない人
私は大学で日本語学を専攻しています。ですから、地元の方の話を。

三河弁の「あんたんがれ」と言うときの「がれ」というのは、他所では「がい」「げ」などの形で九州方言に多くみられます。全く離れたところに似た方言があることを方言周圏分布といい、文化の発信地であった京都を中心に同心円状に古い言葉が伝播し現代に残っているのです。

方言はあまり好まれる傾向にありませんが、とても貴重で魅力的なのです。幸田町は幸い人口が増加しております。しかし、幸田町に移住してくる人が増え、また、時とともに世代があたりしくなると、方言は薄くなっていくものです。

現在の方言に固執するというのも好ましからざることもかもしれませんが、現在の幸田町の方言を話し、伝えていくというのも郷土愛のひとつではないでしょうか？

はろーキッズ

掲載写真を印刷してプレゼント。
希望者は企画政策課まで。



わんぱくどより

「某月某日」
「豊坂保育園」

クッキングー!

豊坂保育園の年長クラスは、子どもも保育士もクッキングが大好き。

園の畑で収穫した野菜や、近くの山や野で採ってきた食材を、すぐに調理して美味しくいただいています。煮たり焼いたり、蒸したり調理方法もさまざまです。子どもたちは何度も経験を積んでいるので、手際もよく、余裕もできてきました。これまで作ってきたものは、ピザ、うどん、たこ



焼き、切干大根の煮物、やまももシユース、どごめジャム、おだんご、玉ねぎバーベキュー、筍ごはんなど。

朝から、何やらいい匂いがしてくると、他の年齢の子どもたちも寄ってきて、鼻をクンクン。少しおすそ分けしてもらいその場で食べたり、給食の一品に添え



たり。
普段は苦手な食材だけど、自分で調理に携わると「これ、おいしい」「おかわり！」と喜びの声も上がります。四季を感じ、自然の恵みをいただく。まさに食育です。
さてさて今度は何をクッキングしようかな・・・

ちよと編集者のひびく

原稿締切の前日に39度の熱が出て、寒気とともに冷や汗をかいた編集者のKです。

先月からインフルエンザが大流行、取材に訪れた学校で隣のクラスが学級閉鎖：なんて場面にも遭遇しました。健康第一、手洗い、うがいを忘れずに！

さて、行ってきました新春駅伝・ファミリージュギンク大会。駅伝の醍醐味はタスキの受渡し！と思いきや、スタート場面は諦めて、中継地点へ。最後はトップのゴール場面を撮影したいと考えていたが、中継場面の撮影をしている間に、トップの選手が折り返して来てしまい…。移動手段が自転車だったので、ゴールの中央公園まで勝負をしてもよかったのですが、断念。いろんな場面の絵が欲しくなるのですが、あれもこれも欲張って、結局、全部が中途半端：なんてこともありました。

1年目、すべてがはじめてのイベントで、もっとこうすればよかったな～と思うことばかりです。次はもっと頑張ろうと、日々精進でございます。

3月は卒業シーズン、「今年はこの学校の卒業式を取材に行くんですか？」とよく聞かれます。新しい旅立ちに向けての別れの場面で、最高の1枚が取れるように頑張ります！(K)